

平川ねぶたまつりの中止のプロセス

～何があったのか、どんな課題があり、今後どうしていくのか～

1. 経緯の流れ（時系列で見る中止判断までのプロセス）



2. 中止を決定した主な理由（実行委員会での判断）

- 1 全国的に変異株による感染が急速に拡大していた。
- 2 県内複数の圏域でクラスターが発生し、感染者が増加していた。
- 3 ねぶたの制作過程での感染リスクが懸念された。
- 4 祭り当日の感染防止対策が困難と判断した。
- 5 ワクチン接種の進捗状況から、8月までの収束が見通せなかった。

人が集まる行動を抑制し、感染リスクを減らすことが重要と判断しました。

3. 連休前の決定が必要だった理由

- ・ゴールデンウィーク控え、各団体の小屋開きが始まるため、ねぶたの発注や制作が進む可能性があった。
 - ・制作過程での感染リスクを避けるため、早期の決定が適切と判断した。
- 団体の経費負担を抑えるため、連休前の決定が適切と認識しています。

4. プロセスの課題（市の認識）

- ・半年以上にわたり検討してきたひらかわねぶた連絡協議会への十分な事前相談ができなかった。
- ・意向調査の途中で中止を決定したことで、各団体に戸惑いが生じた。
- ・実行委員会の出席に当たり、改めて意見を伺うなどの配慮が不足していた。

5. 一般質問での主な質疑応答（要点）

Q1 なぜ4月26日に中止を決定し、27日に発表したのか？



半年以上前から連絡協議会が対策を検討していたのに、相談もなく突然の決定だった。なぜこの時期に決定・発表しなければならなかったのか。



感染拡大やクラスター発生、ワクチン接種の進捗などを総合的に判断し、連休前の中止は適切なタイミングだったと認識している。2年連続の中止は苦渋の決断であり、来年こそは安心して開催し、市民の皆様と盛り上げたい。

Q2 中止までのプロセスは適正であったのか？



連絡協議会の意向調査が終わる前に決定したのは適切だったのか。ねぶた小屋が4月に造られている中で、もう一度協議して判断すべきではなかったのか。



日々感染状況が変化しており、連休前に判断せざるを得なかった。これまで協議してきたが、事前に意見を伺い、意向を確認すべきだった。各団体への配慮が不足していたと受け止めている。

Q3 当時の検討状況と意向調査の結果は？



連絡協議会では開催に向けた検討をしていたはずだが、意向調査の結果はどうだったのか。



4月15日の3者座談会では、しっかりと対策を取った上で開催することを確認していた。しかしその後、感染状況が再拡大。4月に実施した意向調査（4月30日締切）では、30団体中 参加11団体、不参加9団体、未回答10団体であった。

Q4 連絡協議会を実行委員会の委員に加えるべきでは？



青森ねぶた祭では、まず中止の意向を表明し、その後関係団体と協議して正式決定している。平川市も同様のプロセスを取るの委員に加えるべき、ひらかわねぶた連絡協議会を実行委員会



当日の採点・選考の公平性の観点から、現時点で委員に組み込むことは考えていない。ただし、今回の対応で課題があったことを踏まえ、今後は意見交換・情報共有をより丁寧に行い、開催に向けて取り組んでいきたい。

6. 今後の取組・改善の方向性



関係団体との連絡調整の強化

・関係団体と意見交換をより丁寧に行う。
・早い段階から継続的に協議する。



決定プロセスの透明性確保

関係団体の意見を踏まえたスケジュールや判断基準を明確にする。



ガイドラインを踏まえた柔軟な検討

感染状況に応じた現実的な開催方法を関係団体とともに検討する。



安心して開催できる環境づくり

市民とともに、平川ねぶたまつりを来り上げられる体制を整える。